

地域公共交通の課題と展望

～JR連合地方議員とともに考える地域交通のあり方～

VOL. 4 北海道池田町（春井町議）

■北海道池田町における公共交通の実態

北海道池田町は、帯広市の東側に位置し、十勝川の流れる人口7000人強の町である。根室本線池田駅近くには十勝ワインで有名な「ワイン城」があり、年間26万人が訪れる観光の町である。

その昔は鉄道の町として、昭和30年代には人口1万8000人を数えたが、国鉄分割民営化等により鉄道が衰退、それとともに人口も減少している。昭和31年には「財政再建団体」へ転落するなど、自治体財政も極めて厳しい状況である。

町には池田駅と利別駅という、根室本線の2駅を抱え、町内にはコミュニティーバスが周回している。また十勝バスが帯広との都市間輸送を担っているものの、年々利用者が減少し、それにより国及び北海道とともに池田町として毎年400万円にも上る財政負担を強いられている。

■人口減少と極めて高い高齢化率における厳しい公共交通の現状

6月3日、JR連合及びJR北労組は春井池田町議会議員を訪問し、池田町における公共交通の実態についてヒアリング及び意見交換を行った。JR連合地方議員団連絡会に所属する春井議員からは、住民人口の急激な減少とともに、高齢化率が約40%となっている現状があり、自動車運転に支障を来す高齢者が年々増加していること、そういった住民からは自宅付近まで公共交通を周回してほしいという要望が年々増加していることが指摘された。実は池田町では全国に先駆けて、スクールバスへの混乗便を町が道路運送法78条の許可を受けて実施してきたが、近年子供が減少し、これまで子供のいる家庭を回っていたスクールバスの対応範囲が狭まったことにより、数多くの住民より今まで通りの範囲でスクールバスを回してほしいといった要望が増加してきていることが指摘された。厳しい財政難とともに、交通弱者と言われる方々へどのように公共交通を提供していくか、現場の苦しい実態が垣間見られた。

■池田町交通政策担当者との意見交換

その後春井町議とともに池田町を訪問し、同町の交通政策担当者との意見交換を展開した。現在池田町はコミュニティーバスを池田線、利別線の2路線をそれぞれ隔日運行してい

るものの、人口減少に伴い乗車率の低下が想定される中での運行を行っている旨報告があった。特に政府が示すコンパクトシティー化とセットになった公共交通の推進については十分理解を示すものの、そう簡単にコンパクトシティー化が進むとは言えず、その中での公共交通の維持は厳しい財政制約の中で困難を極めることが吐露された。



とりわけ、農村部については前述のスクールバスで対応することが難しい状況になっており、デマンドバスの導入を検討しているものの、コミュニティバス以上の財政負担を強いることになるデマンドバスの導入には慎重にならざるを得ないとのことであった。

一方、J R北海道との連携についてはこれまでほとんどなされたことがなく、池田町が主催している地域公共交通確保維持改善協議会にもJ R北海道への参加要請もしていないとのこと、池田町としては、今後域内交通と都市間交通の融合を真剣に考えていかなければならず、J R北海道と協議・意見交換の場を設けていきたいとの意向が示された。

■過疎化の進んだ地域における実態に即した交通政策の実現を！

池田町は過疎化とともに高齢化率が極めて高い地域であり、そうした地域での厳しい公共交通の実態が明らかになった。特に域内交通に民間バスが一切ない池田町にとって、公共交通の提供はダイレクトに財政負担に直結する。しかし池田町としては、高齢化に伴う交通事故の増加懸念などから、今後も引き続き移動手段を提供する使命を全うするとしている。地方の中核都市であれば民間バスが存在し、運用のあり方等を当該市と連携して進めることとなるが、そういったことすらできない過疎化の進んだ市町村における交通政策のあり方は、全く別角度での政策アプローチが必要ではなかろうか。併せて、域内交通とともに都市間輸送を担うJ Rがそうした市町村の域内輸送と積極的に連携・協調し、チーム公共交通を形成していく必要性を改めて認識した。

J R連合は今回の実態把握で得られた知見を十分受け止めつつ、チーム公共交通の形成に向け現場実態に即した政策立案を展開していく。